

| 市長 | 副市長 | 部長 | 課長等 | リーダー | 担当 | 供覧 | 報告者 |
|---|-----------------------------|--------|-----|---------|---------|-----|-----|
| | | | | | | | |
| 第9回養父市振興計画審議会会議録 | | | | | | | |
| 期 日 | 平成22年5月27日(木) 午後1時30分～4時45分 | | | | | | |
| 場 所 | 養父市立関宮エイドホール 2階会議室 | | | | | | |
| 出席並びに 欠席委員 出席19名 欠席6名 凡例 ○：出席 ×：欠席 | 委員氏名 | | 出欠等 | 委員氏名 | | 出欠等 | |
| | 会 長 | 荒田幹夫 | ○ | 委 員 | 仮屋美子 | ○ | |
| | 副会長 | 大林賢一 | ○ | 委 員 | 宇都良栄子 | ○ | |
| | 副会長 | 正垣道子 | × | 委 員 | 梅井逸郎 | ○ | |
| | 委 員 | 池田和揮 | × | 委 員 | 村上隆司 | ○ | |
| | 委 員 | 山下邦子 | × | 委 員 | 田渕久和 | ○ | |
| | 委 員 | 雑賀 学 | ○ | 委 員 | 吉田明博 | ○ | |
| | 委 員 | 圓山 光 | ○ | 委 員 | 米田一之 | ○ | |
| | 委 員 | 松岡 勇 | ○ | 委 員 | 池田ビルギット | ○ | |
| | 委 員 | 田中今子 | ○ | 職員委員 | 満田理恵 | ○ | |
| | 委 員 | 田村 譲 | ○ | 職員委員 | 奥藤 啓 | × | |
| | 委 員 | 山根美智子 | ○ | 職員委員 | 井平 聡 | × | |
| | 委 員 | 小松原貴美子 | ○ | 職員委員 | 塚本 竜 | × | |
| | 委 員 | 藤原光子 | ○ | | | | |
| アドバイザー | 松原永季・スタジオ・カタリスト代表取締役 | | | | | ○ | |
| 事務局 | 政策監理部長 | 児島一裕 | × | 企画政策課主幹 | 藤野英希 | ○ | |
| | 企画政策課長 | 栗田伸一 | ○ | 企画政策課主査 | 田村 亘 | ○ | |
| | まちづくり課長 | 阿部 稔 | ○ | | | | |
| <p>1 開会 (事務局)</p> <p>2 あいさつ (荒田会長) 審議会も9回目となり、いよいよ骨格の部分をもとめる段階となった。何度も話しているが、私たちがつくる今回の総合計画は、行政に対する単なる提案であってはならない。養父市はこれだけ大きな課題を抱えているのに、行政も市民も考え方や行動が変わらないのは長期展望が示されていないからで、明確な長期ビジョンを定め、それに沿った市政を行うようになれば、自ずと変わることができる。来年度以降の養父市の市政は、私たちが示す総合計画をベースに市政を行っていくことを目指す。養父市の課題を解決しながら、養父市を再生していくには、ありきたりの発想ではなく、現実を直視し、既成概念にとらわれることなく、大胆な発想をしてみる。そして、実現のため、優先した政策を明確に定め、市民と行政が力を合わせ、知恵を出し合いながら全力で取り組むことなくして、成し遂げることはできない。委員のみなさんへのお願いだが、自分にもっと大きな責任を負荷して養父市の将来を考えてみるため、自分が市長になったつもりで考えてみていただけないか。私が思う総合計画の課題と方向性は大きく2つあり、1つ目は「過疎化、高齢化と財政規模縮小の中で、地域コミュニティとインフラ(社会基盤)をどうして守るのか」、さらに「地域コミュニティとインフラを守るために必要な財源となる、市民と行政の経済力をどうして高めるか」こういった視点からもお考えいただきたい。</p> | | | | | | | |

3 進め方の説明～本日とこれから～

(松原アドバイザー) ※本日の進め方の説明に続いて。もう少し長いスパンでも説明させていただく。今日まで、養父市の課題の整理、事業の整理、基本的な枠組みを考え、大きく5つの柱が決まった。そして、今、大黒柱を考えている。大黒柱は、それを見たら養父市の目指すものが分かるというものである。その大黒柱ができた後、施策や具体的事業を柱に沿って構成、養父市の現状を見たときの優先順位、スケジュールを次回以降考える。道のりでは3分の2ぐらい来たところで、大黒柱の検討は重要な節目になる。

4 前回の振り返り

(松原アドバイザー) 前回、大黒柱の考え方、キーワードを出してもらった。いくつかの傾向がある。「結」、「ふるさと」、「自然・環境」、「その気になってもらうインパクトのある言葉」、「心をテーマにしたもの」、「単一キーワード」があった。これを話し合っていたと「結」、「ふるさと」が関心は高かった。また、「結」、「とんとんとんからり」の言葉について議論があった。「とんとんとんからり」は戦争の時代につくられた歌であり、総合計画の中で位置づけて大丈夫かという意見。若い世代としては、さほど、そういう思いはなく、素直に受け止められるという意見。また、「結」、「ふるさと」は、あまりにも後ろ向きではないかという意見、古い環境の中に戻っていくような考え方になっているのではないかという意見。また、前に進めていくためには、経済的な背景を含んだ言葉が必要という意見があった。

委員等からの他の意見としては

- ・ 「とんとんとんからり」の資料について、歌詞は同じだが、小学館の日本大百科全書に出てくる「結」の説明とずいぶん違う。説明としては、宣伝文書で不適切ではないか。まず、事実を書き述べてから出発すべきと思う。
- ・ 「結」という言葉はいいと思うが、何が焦点なのか分からない。まず、健康が一番だと思う。健康ということがあってはじめて、いろいろなことができるという考え方をに入れてほしいと思う。
- ・ 表裏一体を踏まえて今が成り立っている。歴史があって今がある。
- ・ 貧しかった昔を知っている。僕たちは昔に戻っても耐えられるが、昔の時代を知らない人は何を夢に生きていくのか。「結」も予算と一緒に考えていけない。
- ・ 市民憲章をつくったときに、副題で「やぶし愛」でまとめた。「みんなでやっぺいこうよ」という思いを愛で伝えている。
- ・ ユニバーサル社会を目指すために「とんとんとんからりのまちづくり計画」を策定した。ユニバーサルは分かりにくいいため、「とんとんとんからり」の言葉を探した。戦時下の言葉であるが、新しい解釈があってもいいのではないか。
- ・ 新しい解釈も必要なことであるが、どうかと思う。「あきらめるな、立ち上がれ」というイメージが合ってもいいのではないか。
- ・ 「結」は地縁共同体、血縁共同体が固く結ばれており、個人の自由は横に置かれた。地域、家庭が崩壊し、そこで「結」が必要となった。個として自立した個人が協働し、自立したネットワークが必要である。

5 「総合計画の大黒柱(案)」叩き台の説明

(松原アドバイザー) ※別資料により、大黒柱・素案(叩き台)と副題・素案(叩き台)を説明。あくまでも参考程度である。1月29日のワークショップで検討した、課題、可能性、提案を振り返って議論していただき、職員も市民も一緒になって進んでいける言葉を考えていただく。参考として、市の考え、今進めていることを説明していただく。

(事務局) 今の1歳の子どもの45歳になる頃には、人口は今の半分になると予測される。高齢化は間違いがないが、人口減の方がこわいと思う。昔は、多世代同居だったが、核家族化が進み、家庭教育、地域教育が崩壊している。養父市で生まれた人が外に出ない仕組みが必要である。家が独立すればコストがかかるが、多世代同居により家のコストが下がり、家庭教育、子どもの見守り、地域コミュニティができる。その次に所得をどうするのかという話になる。現在、養父市の養蚕農家が819戸ある。筏地区を伝統建造物保存地区として平成24年度に指定する取組みを進める。養蚕農家に住み、保存しながら生活することにより観光資源となる。大工さんの技術の伝承、左官、建具屋の活性化し、空き家や空き農地を利用した定住が進む。何か1つを売りにして福祉、教育、産業を考える。ユニバーサル社会にたどり着くまでに、養蚕農家を使って産業振興を図る。職員も今年度末には350人を切るかもしれない。今の体制は維持できなくなる。同種同事業を整理し、余ったお金を新規事業に充てる。

委員等から意見としては

- ・ 今、養蚕農家に住んでいるが、空き家を探すのに大変苦労した。Iターン、週末暮らしの人に使えれ

ばいいが、10軒回っても、なかなか貸してもらえなかった。このため、行政の力が必要である。養蚕農家の活用には賛成である。

6 班ごとに大黒柱・副題を検討し発表

班ごとに、言葉の意味等を説明しながら、まとめた「大黒柱」を発表。続いて、同じような意味の言葉を集め、グループ化し、委員のシール投票を行った。

| | 大黒柱 | 副題 |
|----|-------------------------|---|
| 1班 | めざせ！人口3万のまち 【7】 | あきらめるな！立ち上がろう！養父市 【12】 |
| 2班 | 響き合う心 世界へ拓く結の郷 【13】 | 人間力・ふるさと力・資源力を生かしたまち 【21】 |
| 3班 | あなたのまち わたしのまち やぶ 【9】 | あきらめるな！立ち上がろう！やろうで！養父市 【同】 |
| 4班 | やろうで！養父市 【22】 | ～自慢できるまちへ 【8】 教育と交流と居住のまち 【10】 |

【 】書きは委員の投票数

(松原アドバイザー) 投票結果では「やろうで！養父市」が22票である。

(事務局) 本日は、養父市が目指す10年後のまちをイメージできる言葉を議論していただいたと思う。「やろうで！養父市」は、呼びかけのような言葉で、将来像をイメージする言葉にはならないと思う。

※まとめ

本日でまとめることはできないので、再検討する。

7 閉会

(大林副会長)